

# 生体モニタリングシステムの概要及び活用について

## 1 生体モニタリングシステムとは

在宅療養をしている方の各種バイタルデータを取得、保存、共有等を行うシステム。

測定した情報は、測定器(※1)からBluetooth®等を介してタブレットなどに自動的に送信・共有されるものが多い。

※1  
測定器は血圧計、体温計、パルスオキシメーター、グルコース測定器、心電計等、各社によって対応可能な機器は異なる。また専用の測定器を要する場合とBluetooth®やNFCに対応している商品であれば汎用的に対応可能な場合もある。

## 2 データを共有するパターン

### ① タブレット端末で共有するパターン

タブレット端末に各社の専用のアプリケーションをダウンロードし、測定したデータをBluetooth®接続等でタブレット端末に送信・共有

### ② バイタル通信専用端末を使用して共有するパターン

測定したデータを、設置したバイタル通信専用端末に送信・共有(※2)

※2  
商品によってはタブレット端末での共有のみで、バイタル通信専用端末は無い場合もある。また、測定機能とデータ蓄積・通信機能が一体になっている場合もある。

## 3 活用のメリット

### ① 利用者に毎日測定してもらった場合 (イメージ図参照)

利用者のバイタルデータを、訪問日以外も確認可能となり、切れ目のない迅速な情報からのアセスメントや、利用者の現在の状態にあったケアの提供が可能となる。  
また、利用者や家族が遠隔で訪問看護師が「見てくれている」ことを実感し、安心感を得ることが出来る。

### ② 訪問時に看護師がタブレットや測定器を携行する等

測定したバイタルデータは自動的にタブレット端末などに送信されるため、バイタル記録などの時間を大幅に短縮することができる。また、データを多職種間でスムーズに共有することも可能となる。

